

幼稚園の教育

Nursery-Kindergarten Education

Ed. Jerome E. Leavitt

Mcgraw-Hill Book Co. Inc. N. Y. 1958

子どもは遊びを通して周囲の現実生活を理解していく。幼稚園は子どもの興味を満足させつつ発達を助ける場所であるから、宇宙の現象・人間世界の事柄などに強い好奇心をもつ子どもたちにとって、自然科学や社会科学の素材や経験は非常にふさわしいものである。この章は、こうした考えを根底におい

て、極めて自然のうちに子どもの発達を助けようとするものである。

まず、この場合就学前の子どもが影響をうける経験の領域として、次のものをあげてい

教師の言うことなすことが、ひとりひとりの子ども或いはグループに対して、直接コミュニケーションの形をとった経験（教師と子どもの経験）

子どもが素材を、自分ひとりで或いは他の者と一しよに、直接に扱うことが主となる経験（子どもと素材の経験）

子どもたちはほとんど意識しないが、環境からくる間接の影響（子どもと環境の経験）

この三つの経験領域と子どもの発達段階とのかみ合わせを上手にとらえることが大切である。すなわち、抽象的なことばでは理解できない子どもであるから、自信をもたせる為にも、なるべく具体的な事物を使うことも必要になるし、また、子どもの遊びは探求的であるので、こんな時教師がことばをはきむの

は不必要である。しかしまた、もの名前・感じ・性質については、ほんの二こと二ことを覚えてやると時にはわかりやすくもなる。こうして子どもの経験をたしかなものにし、広くしていくのである。

明瞭にするような素材に寄与するのは教師の責任である。この二つの領域の結びついたところの経験を、実際に効果的におこなわせる為には、教師はどうしたらよいであろうか。以下の「プログラムを計画すること」「素材と活動」の節では、こうした現場の教師の関心にある程度答えてくれている。以下ごくかいつまんでその内容を紹介しておこう。

一、プログラムをたてること

○その年の計画

子どもの興味が季節に左右されるといふことから、この章の筆者は季節的な面から計画をたてている。まず、季節にわけてノートを整理する。（後註。学期が始まると、材料を集めることも時間的にたいへんであるので、始まる前にできるものは集めておいた方がよい。このように準備しておく、プログラムの中間にいろいろなものが含まれても矛盾しない順序がよく、しかも変化に富んだ経験を与えることができる。）

○グループの時間

この時間は、そのグループの成熟度にもよるが、三、四歳では非常に簡単な内容で10分、五歳児では20分ぐらいまでの範囲で、それぞれ発達段階に適した内容をもっているように配慮すべきである。この時間のための素材は、子どもが幼稚園にもってくるものでもよ

いし、天気、休日、動植物の成長など環境的なものから用意することもよい。そしてそのために常設の場所を設けて、棚には絵や本、素材を秩序整然と入れて子どもがすぐ手にとることができるようにしておいたり、或いは教材に使えるような絵を雑誌その他からとって綴りこむの役にたつ。主題を補足するよう集めるのには、なかなか時間がかかるが、上手に整理していくようなくみさえてきていれば容易にできるものである。こういう場合、子どもの好みを研究することは勿論大切である。一般に子どもは色のない絵や写真よりは色のあるもの、そして強い輪郭はっきりした強い色を好む、大きさは輪郭ほどには重要でない、というようである。そしてこれらを一週間または二週間ごとにとり変えてやれたなら、子どもの興味は満足されるであろう。実例として次のようなカテゴリーをあげているが、これらの絵は、同じような主題に統一されて示されること、子どもの目の高さにかげられることが望ましい。

海の生活 野生或いは家庭で飼う動物 昆虫や蝶 犬やねこ 花 夏 春 冬 秋
復活祭 農場 航海 汽車 トラック 飛行機 自動車 木材の伐り出しときこり
商業 工業 赤ちゃん 洗濯と着付け
就寝 健康と安全 裝飾 学校 音楽 廢物利用 ボート クリスマス お誕生日

二、素材と活動

(1) 展示物と絵

一般にサイエンス・テーブルにおかれるものは、子どもが握れるような素材がよい。この点でも教師によって説明され、そして各自が観察するよう提供される前にグループの時間において子どもたちによって話しあわれる。展示物の主題もいつでもできるのだが、グループの時間にとりあげられるべきである。

○展示に使えるもの

野菜・果物（中には半分に切ったものもあるとよい）、落葉、さやとかこぼれおちた種、常緑樹と松かさ、砂から石、色や形や型を示すような岩、穀物、織ったり編んだりした木綿やウール、衣服の材料になる鳥や羽、磁石と付属物

○絵

野菜や果物（栽培しているもの、市場に出されたもの、料理されたもの）、動植物の棲息地（森や河の中）、木、枝、いろいろな生長段階の園芸、森の景色、自然の構成、彫刻、芸術品・木材を森から運び出す鉄道、製材、建築、大工、木型をつくる機械や人間、羊から衣服になるところ

(2) 生きもの

幼稚園で飼えるものとして、
ネズミ・リス・モルモット・鳩・チャボ・

大蛙などをあげてあるが、その他カナリヤや熱帯魚・メダカなど勿論よいと思う。

(3) 植物

戸外を歩くと季節の典型的な植物を観察したり話しあったりすることが出来る。

○室内での利用

大きな陶器の入れものをいくつか用意するとよい。これは裝飾にもなり、子どものためにもよい。田舎道で見られるようなもの、例えば秋の明るい木の実、常緑の枝、落葉樹、背の高い庭花など、何一つとして役にたたないものはない。これら大きな素材は子どもの注目を集めるのでたいへんよい。また、子どもは花をもつてくるのが好きなので、その容器を用意する。多くは子どもが自分で花瓶に入れる。

また、窓しきいの庭もよい。ここには鉢うえの植物や冬によく成長する植物をつくるのである。

箱庭は子どもにとっても好かれるものである。小さいシダ、こけのついた岩とか、新芽が出ている野菜などを配置したらおもしろいであろう。子どもが自分で植えるということは真に興味のあることであるが、植える前に教師がその植物の周期をはっきり示すと、植物の育つ周期の概念を理解するのに効果的である。

子どもがめいめいに鉢植えをするとき、教師用をいくつか用意し、子どもが失敗したと

きに備えてやることなど、教師として賢明な
ことであろう。

(二) 自然の力

小さい子どもでも太陽との関係は外に出れ
ばわかるのだが、家族のような親しい者の影
が動いたりすると、常に好奇心をそそられ
る。この興味を利用して、日時計を紹介でき
るし、また、屋内では窓との間に紙をおい
て、紙の後を通るのは誰の影か、というよう
なあてっこ遊びもおもしろいだろう。

その他、プリズムで日光をとらえて、七色の
虹を楽しんだり、それを部屋の周囲になげた
りもできる。違ったワットの電球も光度を示
すために三つまたのソケットの中に入れる。

こうした経験は、昼と夜、寝ている時と起
きている時についての話しあい結びつく。

その他、天気と季節との関係もいろいろと
工夫できよう。

(六) 散歩

○近所への外出

どこでも近所には必ず店やサービス機
関があり、大抵の子どもは親に連れられてこ
れらの場所へ行く。教師は、この近所訪問を
子どものあるべき経験とするためにはどのよう
に指導すべきかについて、周到に計画するこ
とが大切である。

○遠方への外出

港や駅などへの遠足は幼稚園行事の典型的

なものである。しかし、これに伴なう景色と
音と混乱と興奮との錯綜の中で、幼児の理解
能力が、果して教師の所期の目的に副ってい
るかどうかは疑問である。

園児が複雑な場所へ遠足に行くのは、一四
九二年のコンプスの航海のようなものだと
言われている。つまり、出かけるときはどこへ
行くのかわからず、目的地に着いてもどこに
いるんだかわからない。そして帰ってきても
どこへ行ってきたかわからないのであると。

○望ましい遠足の例

ごく近所への遠足でも、幼児に対して極め
て豊富な体験を織り込んで、しかも混乱させ
ないように計画されることができよう。

複雑な産業施設を訪れるよりも、もつと混
乱が少ない行き先がある。小農場、博物館、
簡単な家内工業がそれである。箒やバスケッ
トや椅子などが原材料からどのようにして造
られるかは子どもを喜ばせるだろう。

4〜5歳の子どもなら図書館へ行くがよ
い。そこで彼らは自分で本を眺めて借りたい
本を選び出すだろう。あるいは館員からお話
を聞く。この「えらい先生から聞いた本の読
み方のお話は永く子どもたちの印象に残るだ
ろう。子どもたちに、目的地への道順や見学し
ようとするものについてあらかじめ説明した
り話しあったりさせることは必要である。ま
た遠足から帰ってから、適当な図画や作文を

書かせて子どもたちの追憶の資料とさせるこ
とも励行すべきである。しかし、この子ども
たちの表現に劇的または芸術的なものを期待
したり要求したりしてはいけない。幼い子ど
もたちには新しい思考や体験を「はぐくむ」
ことを求めることこそ尊ぶべきである。

(七) 計画の補助としての文学

○お話

三歳の子どもは、人間関係により多くの興
味をもつ。この年齢の子どもたちの自然現象
に対する興味は、なまえ・音・色や形・簡単
な動作に限られている。子どもたちの興味を
もつものはみんな人格化され、自分と同じよ
うな感情と動機を賦与される。

四歳〜五歳の子どもは、自己中心性が少な
くなり、自然現象に客観的な興味を抱くこと
ができるようになる。また、原因と結果を
理解するようになり、時間観念が発達して
くる。

彼らに対する文学は、どんな話題であらう
と、日常の経験と深い関係を有するものを選
ぶべきである。

劇の主題は子どもたちの身近なことのくり
返し以上のものであるべきである。この演劇
は、子どもたちの生長しつつある想像力をよ
り豊かな経験に導びき、また彼らの事物や人
びととの関連感覚を高める。
子どもたちは絵本を見たがる。ブック・コ

1 ナーには、自然科学や社会科学を良く図解したものをじゅうぶん備えるべきである。

○詩

子どものための詩に二種ある。すなわち、著者が本当に子どもの観点にたつて、もし子どもに発表力ありとせば、かく言うであろうように書いたものと、著者がおとなの眼で子どもをみて書いたものである。しかし、小さな子どもの理解しうるのは、前者のみである。

子どもむきのよい詩は、動機的に感銘を与えなくてはならない。そして、すべてのよい詩と同じく、この種の詩も、押韻とリズムをもつていなければならない。子どもは、このリズムと、物や人との親近感を好むのである。思いつきと音韻のおもしろさは子どもをひきつける。

しかし、一番よいことは、子どもたちが自分で上手な詩を作ることが出来ること、そしてそれによって、勇気を出すことである。

〈註〉学年始めに整理しておくノートには、

一般に次のものが含まれる。

○ 四季の毎週のプラン

1、教師によって準備さるべき季節の素材と活動

2、種々の分野への遊び素材の導入計画
3、季節に起因する主題についてのグル

1 プ実験および討論の素材

○ 予め企画されるべき実験の計画

1、映画とフィルムとの準備

2、外部から訪問者を招いて特別なことをする日割

3、博物館による展示の準備

4、近所のおもしろいところへの外出

5、近所より遠いところへの遠足

○ 正しい用語、課程、簡潔な説明に関する注意

○ 設備を作るための作業計画

1、生きものの用のいろいろな型の籠や飼育箱

2、遊び施設を作る計画

動物や昆虫の飼育を教えること

自然科学および社会科学の素材の切抜きと注釈

食物その他の素材の作り方

○ 解題

1、主題によって分類表記された話

2、

3、貴重な内容についての注釈のパンフレット

4、

必要な設備

購入すべき素材

製作・改良すべき素材

（以上）

（赤池博子）

必要設備

購入すべき素材

製作・改良すべき素材

（以上）

幼児の教育 第五十九巻 第五号

五月号 © 定価五〇円

昭和三十五年四月二十五日印刷

昭和三十五年五月 一日発行

東京都文京区大塚町三五

お茶の水女子大学付属幼稚園内

編集兼 津 守 真
発行者

東京都文京区大塚町三五

お茶の水女子大学付属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

東京都板橋区志村町五

印刷所 凸版印刷株式会社

東京都千代田区神田小川町三ノ一

発売所 株式会社 フレーベル館

振替口座東京一九六四〇番

◎本誌ご購入についてのご注文は発売所フレーベル館にお願いいたします。